**アナフィラキシー症状・危機管理マニュアル（例）**

令和○○年４月　○○立○○学校

**アナフィラキシーは非常に短時間のうちに重篤な状態に至ることがあります。教職員の誰が発見者になった場合でも適切な対応がとれるように全員が情報を共有し、常に準備をしておく必要があります。**

**１　緊急時の対応モデル**

１　対応者への指示

２　周囲の教職員への指示

３　エピペン®の注射または介助

４　必要に応じて主治医等への

相談指示　　　　　　など

指示

１　エピペン®や内服薬の準備

２　学校生活管理指導表の確認

３　食物アレルギー症状チェッ

クシートの記録

４　エピペン®の注射または介助

５　救急車の要請

６　保護者への連絡

７　周囲の児童生徒の管理

８　救急隊の誘導　　　など

**校長・教頭等**

**周囲の教職員**

**（応援にかけつけた教職員）**

**救急隊へ**

**・エピペン®の注射**

**・１１９番通報**

**・ＡＥＤの準備**

・気道確保

**自発呼吸がない場合**

・胸骨圧迫

・人工呼吸

・ＡＥＤ実施

**あり**

**なし**

**一次救命処置**

・症状・経過の把握

**・学校生活管理指導表の確認**

**・食物アレルギー症状チェックシートによる確認**

**症状は急激に変化することがあり、５分ごとに注意深く観察する。最低１時間は目を離さない。**

・**学校生活管理指導表の指示に基づいて行う。**

**・食物アレルギー症状チェックシートに基づいて行う。**

エピペン®の注射　など

連絡

応援

**①状態の把握**

**②応急処置**

**反応があるか？**

**周囲の安全の確認**

**発見者（及び応援にかけつけた養護教諭などの教職員）**

**・アナフィラキシーの兆候が見られる場合**

**・学校生活管理指導表で指示がある場合**

**・エピペン®を使用した場合**

**・主治医、学校医等または保護者から要請がある場合　　など**

**救急車要請の目安**

**☆異変に気づく**

**◆大声で応援を呼ぶ。患者から離れない。**

◆**安静にし、動かさない。目を離さない。**

※千葉県教育委員会「学校給食における食物アレルギー対応の手引き」より

（千葉県教育庁教育振興部学校安全保健課のホームページにも掲載中）